

### 解説2

# 「Right Decision(ライト・ディシジョン：適切な判断)」のための産業メタバース／デジタルツイン

プレミアムアーツ 山路 和紀\*

\*やまじ かつのり：代表取締役/CEO

今回、筆者が、「機械設計(Machine Design)」に寄稿することになり、非常にうれしく、ワクワクしている。大変光栄に思う気持ちと同時に、不安と緊張もかかえている。というのも、筆者の社会人人生は、「3Dソフトウェア設計(3D Application Design)」というソフトウェアの分野にどっぷりと浸かっており、機械設計(Machine Design)の分野とは、同じモノづくりに軸足を置いているとはいえ、大きな隔たりがあると考えられる。果たして、この大きな溝を埋められるだけの価値を、筆者が提供できるのだろうか？そんなことを本文を執筆するにあたり強く感じたのである。筆者の人生については、また別のところで語ることにするが、愛知県名古屋市という製造業が盛んな地域で生まれ育ち、ソフトとハードという異なる分野をつなぐ、「リエゾン(連携役)」になりたいという思いを昔から強く持っていた。数奇な人生の巡り合わせで、今は「産業メタバース」ソリューションの提供に全精力を傾けていることになっているが、筆者はこれこそが自分の「天命」と感じ、日々の活動に勤しんでいる。少しでも皆さまのお役に立てればという思いである。

### 産業メタバース時代の始まり

筆者たちの会社、プレミアムアーツは、産業向けのXRソリューションである産業メタバースを社会実装するためのサービスを提供している。おそらく、産業メタバース(インダストリアル・メ

タバース) サービスを提供することを掲げる、国内初の専門企業であろう。筆者たちが得意にしてきた、リアルタイム3Dグラフィック技術、AR(拡張現実)、MR(複合現実)、VR(仮想現実)、XR技術を基盤とし、IoT、デジタルツイン技術を加えることで、産業メタバース分野に特化している。顧客要望をオーダーメイドでシステム化するだけでなく、約30種類のシステム製品を展開していることが最大の特徴である。そのため、顧客サイドは、迅速かつ安価に、サービスを導入することが可能となっている。

この産業メタバース(インダストリアル・メタバース)という言葉は、確か、2022年に米国のマイクロソフト社が開催した「Microsoft Build 2022」において、CEOのSatya Nadella(サティア・ナディラ)氏が自身のスピーチの中で使用し、世界中に広まった概念である。当時の発表映像は、今もYouTube上で公開されている\*1。

ナディラ氏はこの「Industrial Metaverse」という言葉を、彼らのクラウドサービスである「Azure Digital Twin」を紹介する文脈で使用している。そして、産業メタバースを支援するため、マイクロソフトは以下の4つの領域のソリューションを強化している。

① Replicate with digital twins (デジタルツイン

\*1 YouTubeサイトで「Metaverse (Satya Nadella 2022 Build Keynote)」と入力し検索